

「旬香みつや」店主

料理人

と な が み つ

小長光史也さん(41歳)

高校の調理科を卒業後、数店で日本料理を修業。ノルウェーとチェコで公邸料理人を経験。帰国後の2008年に「旬香みつや」を開店。食材は国産にこだわり、勝沼ワインとも相性がよい和食が堪能できる。(阿佐ヶ谷駅南口より徒歩4分/杉並区阿佐ヶ谷南3-44-9 電話 03-6795-5328)

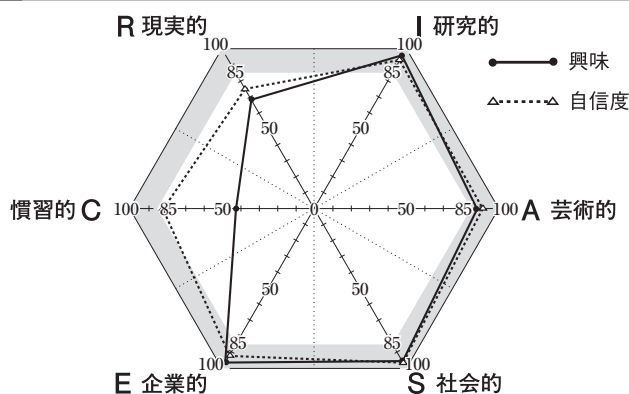


社会人に

職業レディネスト・テスト

VRTを受けていただきました。

興味(A検査)と自信(C検査)の六角形



基礎的志向性のプロフィール

基礎的志向性	標準得点	弱い	基礎的志向性	強い	パーセンタイル順位								
		0	10	20	30	40	50	60	70	80	85	90	100
D 対情報志向	97												
P 対人志向	52												
T 対物志向	37												

小長光さんの
職業レディネスト
判定

- 興味が強い職業領域
 - 1位: I 研究的職業領域
 - 1位: E 企業的職業領域
 - 3位: S 社会的職業領域
- 自信が強い職業領域
 - 1位: S 社会的職業領域
 - 2位: I 研究的職業領域
 - 3位: E 企業的職業領域・A 芸術的職業領域

興味が特に強いのは、Iの研究的職業領域(研究や考える仕事)とEの企業的職業領域(新しい企画を考えたり、組織を動かすような仕事)、Sの社会的職業領域(人に接したり、奉仕的な仕事)の3領域である。これらの興味・関心は「自分の店を持つ」という働き方の中に活かされている。

自信については、全体的に高い傾向にある。店に関わる全ての仕事に一人に対応される中で、興味の有無に関係なく、自信が培われている。基礎的志向性は、D(対情報志向)、P(対人志向)、T(対物志向)の順に興味の傾向が強く、中でも特に好奇心の強さと人の役に立ちたいという気持ちが強く表れている。



う。中学時には将来は料理の仕事に携わりたいと思い、高校は調理科に進学する。卒業後に銀座の割烹料理屋に就職、その後30歳までに5店ほどで修業を積む。そして30歳の時、夢だった海外での仕事のチャンスをつかみ、ノルウェー、チェコの日本大使館での公邸料理人を担当。7年ほど赴任する

母親が料理好きで、小長光さんは小学生の頃から料理に興味があった。パスタや麻婆豆腐などを作ると、その出来が家族に好評だったという。

中で「もつとこつちにいたい」との気持ちもあったが、ちょうどその頃子どもが生まれたこともあって「自分の店を持ちたい」という目標を実現させるには今がよいのではないか」との思いも募り、帰国。2008年に現在の店をオープン。旬の素材を活かした和食の店として、食通の常連たちの舌を楽しませている。

週に2〜3回は朝6時に家を出て築地へ仕入れに行き、戻るとすぐに仕込みに入る。水・土曜はランチもやっていて夜も10時半まで営業するので、睡眠時間が短くなりがちだというが、小長光さんは、「自分が供する料理とお酒で、お客様にほっとしていただく。その時

間を楽しんでいただけでは何より嬉しいですね。この仕事は人に「いい時間」を提供することではないかと思っています」といふ。

逆に厳しい点としては、「自分がしっかりしていないといけないので、健康など自己管理には気をつけなければなりません。また、最近環境の変化の影響なのか魚や野菜など仕入れられる食材の幅も以前より狭まってきたような気がします。今後が心配ですね」。

お客様への対応にも常に心を配る。「アレルギーがあればその素材を避けるのはもちろん、何度か足を運んでくださる方には前回と違った献立を入れてコースをアレンジします」。

料理人を目指す若い人も多いが、「例えば自分の店を持つという目標を設定すれば、挫折そうになってもそこに向かって頑張ることができるのではないかと思います。誰かが何かをやってくれるわけでもないし、自分でしっかりしないと目標には近づけない。自分次第という部分が大きいですが、やればやっただけ得ることができるのではないのでしょうか」。

VRTの結果を見ると、研究的、芸術的、社会的、企業的の各職業領域にかなり強い興味を表れている。それは、自分だけで店の経営を担うためには、仕入れ、料理の創作から、お客様への応対や経理的な管理まで、幅広い範囲の要素が求められることを示しているようだ。

6つの職業領域（現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的）への興味・自信と3方向の日常行動特性（対情報、対人、対物）から、職業興味、基礎的志向性と職務遂行に関する自信度の特徴を知ることができる。

■適用対象：中学2年生以上の生徒・学生

Vocational Readiness Test VRT 職業レディネス・テスト

VRTの活用

様々な形で、人は生涯にわたって職業と関わりをもっていくきます。特に中学生・高校生の時代は、「自己の進路を探索し、将来の職業や生き方の大きな方向を決定する課題を担った時代」と言ってもよいでしょう。ところが近年、非正規就業の若者の増加など、若年者の就労や就業意識に関する様々な問題が提起されています。実際、この時期にこうした課題をどのように解決していくかが、その後の職業選択や職業生活、ひいては生き方そのものと非常に関係してくるのです。職業レディネス・テストの目的は「学生・生徒が自らの進路選択を達成できるように援助すること」です。

「レディネス」とは、「準備（用意）ができていること」という意味で、職業レディネス・テストは中学校・高等学校等の進路指導において、生徒の職業レディネス（準備度）を把握することを目的として作成された心理学的検査です。

職業経験の少ない若年層を対象としているため、単に職業興味の特徴だけを捉えて職業とのマッチングを行うのではなく、職業興味の発達という観点から、また、興味と自信との関係などから総合的に個人の特徴を捉えようとしています。

職業意識の啓発の必要性が指摘される状況の中で、生徒自身が進路選択を自分の課題として受け止め、自己理解を深めながら職業と自分とを関連づける機会を提供します。

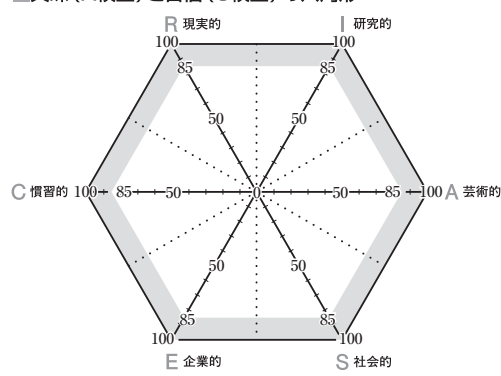
検査の構成

A検査：職業興味を6つの職業領域について測定し、プロフィールで表示
B検査：職業への興味関心の基礎となる基礎的志向性を測定し、3つの方向性によるプロフィールで表示
C検査：職務遂行の自信度を6つの職業領域について測定し、プロフィールで表示

目的別の活用

この検査は、職業興味・基礎的志向性、職務遂行の自信度の3側面から、「自己理解」を援助し、職業と進路を関連づけるために用いるのが基本的な活用方法です。

■興味(A検査)と自信(C検査)の六角形



職業レディネス・テスト
 B検査——基礎的志向性
 A検査——職業興味
 C検査——職務遂行の自信度

- ① 進路選択への関心・意欲を高めるためには、中学生なら2年生、高校生なら1年生か2年生の初めに学級、ホームルーム単位で行う。
- ② この検査の結果と生徒の希望や求人情報とを関連づけることによって、就職希望者が就職先を絞りこみ、自分の希望と現実をマッチできるような援助をすることができ。
- ③ 進学希望者の進学指導の際には、専攻科目を決定するにあたり、成績だけでなく、自分の興味や志向性、将来の希望職業等を明確にしながら進めることができる。
- ④ この検査の問題項目そのものが職業情報であり、「職業についての学習」の時間の教材として用いることができる。

ワークシートの活用

- ⑤ 検査結果は、進路指導の方針作りのための資料としての活用ができる。例えば、教師が日ごろ抱えている生徒のイメージと比較し、生徒に対する見方を点検・確認したりする。

本検査で用いられている項目は、平易な職務記述であり、幅広い職業領域をカバーしています。この性質を利用して、受検者の職業に対する態度の一端をとらえることができます。それらも適切に解釈することによって、受検者がどのように職業の世界をながめているかという視点から、自己理解を深めるための素材を提供します。

（ホランドの6類型）で表すことにより、職業理解へとつながるよう工夫されています。

中学生や高校生では、職業に対する知識がまだまだ希薄であり、社会にどんな職業があるのかを知ることがとても重要なことです。また、この時期の職業興味は、様々な経験や活動によって大きく変化していく可能性を秘めているので、結果を固定的に解釈せず、将来を見据えたときに、どのような発達段階にあるかという視点を重視します。

例えば、進路選択への関心や意欲を高めるための啓発の活用例としては、「仕事と職業の六角形」から類似する職業を具体的に調べさせることで、職業理解を深めることができます。また、「職業ハンドブック（O HBY）」や「キャリアマトリックス」などを使って仕事調べをすることで、興味・関心のある職業の理解が進み、興味領域の方向が絞り込まれていきます。

さらに、自分が何をしたいのか、興味・関心のある方向がわからなくて進路に迷っている若年者に対して、就職への動機付けや実際の求職活動の支援などを使用することができます。